

# 令和4年度予算編成の基本的な考え方

## 現状の分析

- 市税収入：前年度比で微増（自主財源の確保）
- 財政調整基金残高：標準財政規模の10%を確保
- 骨太の方針：「令和4年度から令和6年度まで地方一般財源総額を確保」



現時点では安定した  
財政運営が確保されている



## 新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえた予算編成

### 1 支援の継続

- コロナ禍の影響を受けている市民や事業者の支援（弱者支援）
- 国・県などからの有利な財源を活用した各種支援

### 2 躍進

- コロナ後を見据えた魅力あるまちづくりの推進（第6次総合計画のリスタート）
- 感染症の影響で休止・縮小等していた事業を再開し、地域活動や地域経済を活性化

### 3 構造の転換

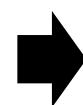
- コロナ禍を機とする未来に向けた変化の波を活かした、庁内の働き方や市民生活の変革
- コロナ禍の経験を踏まえ、不測の事態にも耐え得る体制の確立に取り組み、市民サービスの継続性を確保



## 感染症の収束状況による方針の転換（条件設定）

感染症の拡大傾向が続くと判断

（東京オリンピック・パラリンピック競技大会後の社会情勢や、ワクチン接種の動向を見て判断）



市民の生活を守る事業  
を中心とした予算配分  
（政策的経費査定）